

ぜひ知っておこう

石油ストーブの正しい使用方法

暖房用としての石油ストーブは、ほとんどの家庭で使用されています。しかも軽くて持ち運びに便利であると同時に、ちょっとしたはずみでも転倒しがちです。最近はこの種のストーブや、各種家庭用石油器具から起こる火災は、年毎にふえていきます。これから年末のいそがしい時期になります。正しく使用して事故を起こさぬよう心がけましょう。

○ストーブを畳の上に置いたときの消火方法

(1) 水バケツを使用するとき
水バケツによる消火は効果があるが、水を汲みに行くまでの間に燃え移らないようにストーブのまわりの燃えやすい物を取り除いてから、水を汲みに行く。

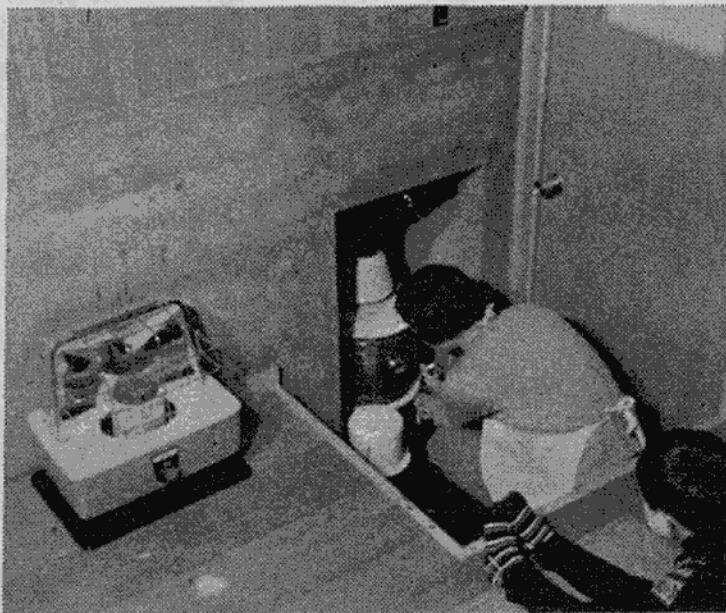
水バケツでの消火方法は、一挙にストーブの芯をめぐけて上からかける。

ストーブの近くに、あらかじめ水バケツを用意しておくのがよい。

石油ストーブを倒した時の消火方法

○こぼれた油に着火、不着火のときでも早くひきおこす
○ストーブはなるべく畳の上に置く、リノリウム、板などの上に置くときは、じゆうたんを敷いてその上に置く

(2) 毛布などをかけてから水バケツを使用するとき。周囲に燃えやすい物があったり、水を汲みに行くのに時間がかかる時は、毛布をストーブにかけ、火勢をおさえて他への延焼の危険を少なくする。



○毛布をかけるときは、完全に炎を包むようにし、すきまを作らずその上に水をまんべんなくかける。

○ストーブをリノリウム、板などの上に置いた時の消火方法

ストーブをリノリウム、板などの上に置いた場合、合には、転倒着火してから水を汲みに行っても間に合わないことが多いから、必ずストーブの近くに水バケツを用意しておくこと。

水バケツでの消火方法は畳の上に置いた場合と同様であるが、注水により、炎が拡散し周囲の燃えやすい物に延焼することがあるので注意する。この場合は毛布による方法はあまり効果がないが、かきぶとんを用いることができ

ば効果がある。
○ストーブは火災予防上、次のように安全な距離を保つこと

| 種類 | 保有距離 | |
|---------|--------|----------------------|
| | 上方 | 周囲 |
| 固定式ストーブ | 1.5m以上 | 0.5m以上 |
| 移動式ストーブ | 1.0m以上 | 0.5m以上 |
| 放射型ストーブ | 1.0m以上 | 前方1.0m以上 周囲0.5m以上 |

石油風呂がまの取扱上の注意

○可燃物から火災予防上安全な距離を保つこと。

日光市の火災予防条例ではかまは上方および前方の可燃物から一メートル以上、側方および後方は〇・五メートル以上の距離を保つよう規定している。

○空焚きを防止するため、点火前には浴槽の底栓と浴槽の水

位を必ず確認すること。

○炎の逆流による事故を起さぬよう、次の点に注意すること
(1) 強風による逆流を防ぐには煙突に逆風止めの装置をつける。

(2) 狭い釜場で吸排気口がない台枠を床にコンクリートつけにして下部の空気を塞ぐ。芯の出し方に高低があったりマッチかすが付着、芯天の腐食などにより不完全燃焼を起し、すすが付着し炎が逆流することがある。

○漏油に注意

燃料タンク給油口の口金をよく締めずに傾斜してセットしたり、燃料タンク内の灯油が少ない場合、タンク内の空気が膨張し灯油が押出されたりして、空気口から灯油が流れ出すことがあるので、受皿は水平に据え付けるとともに燃料タンクにはいつも燃料を満たしておくこと。

○給油をするときは完全に火を消してから

○点火したら燃焼筒が芯ケースに正常に入っているかを確認する。

○芯を取り替えたり、調整したりする場合は、芯ケースの中に入るようにセットする。

○油火災に有効な消火器、または乾燥砂を備えておくことが望ましい。